

Jul. 2023

ハロー
ホスピタル

Hello Hospital



公益財団法人 東京都医療保健協会
練馬総合病院

<https://www.nerima-hosp.or.jp>

Vol.128

病院の理念

職員が働きたい、働いてよかった、
患者さんがかかりたい、かかってよかった
地域が在って欲しい、在るので安心
といえる医療をおこなう。



目次

- ・ 地域の皆様へ
- ・ 診療部通信
- ・ 在宅症例検討会
- ・ 看護週間、記念講演
- ・ 新任医師紹介
- ・ コモンディーズシリーズ「肩関節疾患」
- ・ 各科の話「ナースの話」、「くすりの話」
- ・ 患者さんの声にお答えします



地域の皆様へ

理事長・院長 柳川 達生

7月となりました。例年、この時期には熱中症にかかる方が急増します。皆様は暑さを避け、こまめに水分と塩分を補給するように心がけてください。5月8日から新型コロナウイルス感染症は5類に分類されました。まだ散発的な感染が存在しているため、油断は禁物です。職員一同、基本的な感染対策はしっかりと遵守して参ります。皆様も院内ではマスクの着用にご協力ください。当院では発熱外来は終了しました。発熱や咳の症状などで当院を受診されたい方は、受付に必ずその旨をお申し出ください。また、発熱に不安のある方は東京都新型コロナ相談センター(0120-670-440)にご相談いただくことや、かかりつけ医での受診も可能です。面会を希望するご家族の数が増えております。まずは事前予約制で再開しました。感染状況を見ながら適宜対応して参りますので、HP等で確認をお願いします。



■病院機能評価6回目の受審

6月12日、13日に日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審しました。当院は2010年よりこれまで5回の認定を受けています。継続的な外部評価が必要です。病院の機能やサービスの質が評価されます。評価のポイントは以下の4点です。

- ① 医療安全の確保:安全な医療環境を提供し、リスクを最小限に抑えるための対策を講じているか。
- ② 医療の質の向上のための仕組みやプロセスを行っているか。
- ③ 患者中心のケアの実践:患者さんのニーズや権利を尊重する取り組みを行っているか。
- ④ 組織改善の取り組みを行っているか。

これらの4点を中心に、病院が提出した資料や現地調査などにより評価結果がまとめられます。これを軸により良い病院になるための取り組みを進めております。認定は病院が一定の基準を満たし質の高い医療を提供していることを示す公的な認証です。

■病院行事再開に向けて

2020年度以降、約3年間にわたり、当院では様々な行事を中止せざるを得ませんでした。地中海料理教室、看護週間講演会、敬老の日講演会や小中学生対象の夏休み医療体験などの開催を見送りました。開催できないことが残念でした。今年は5月9日には看護週間記念講演会を、5月16日には第10回練馬在宅症例検討会を、近隣の在宅医療機関の方々をお招きして開催しました。今後も状況を見ながら開催してまいります。

■テレビ出演

当院では健康を保つために地中海式健康和食を推進しています。詳細は糖尿病センターのHPをご覧ください。今回、糖尿病の食事療法に関して、木佐彩子アナウンサーとの対談形式で院長柳川がテレビ出演することになりました。時間制約のため詳細なお話はできませんでしたが、ご都合が合う方はぜひご視聴ください。

「糖尿病の食事療法はバランスが肝心」

BSテレ東 2023年8月5日(土) 20時54分~21時00分

BSテレ東 放送 教えて!ドクター 家族の健康

出演 フリーアナウンサー 木佐 彩子 練馬総合病院 病院長 柳川 達生先生

番組テーマ 「糖尿病の食事療法は「バランス」が肝心」

BSテレ東 (BSデジタル7ch) 2023年8月5日(土) 20時54分~21時00分

(日本経済社より、告知ポスターの掲載許可取得済)

新型コロナ感染症対応のための発熱外来終了の報告

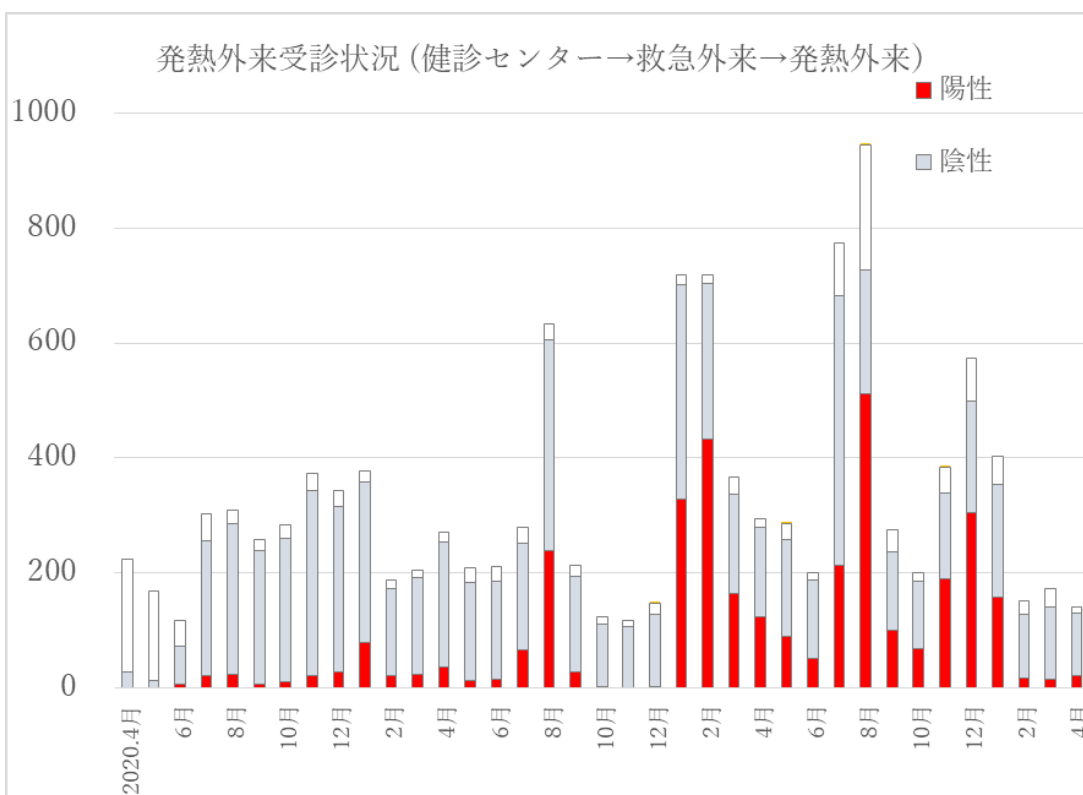
新型コロナ感染が日本に広まり、3年以上にわたって生活が制限されてきました。2020年2月に東京都で感染第1号が報告され徐々に感染が拡大し、第1波から第8波まで感染のピークが繰り返されてきました。

当院は新型コロナ感染症の診療を、発熱患者の対応としてゾーンニングの観点から、感染力の強い新型コロナ感染症と一般の疾患に対する診療を区別するため、発熱外来を開始しました。初期には救急外来にて対応し、待機場所として屋外テントの利用、室内アイソレーターを設置しました。その後、多くの発熱患者に対応するため、2020年12月からは、新型コロナ感染が疑われる患者さんの受付から診察、検査、会計に至るまで導線を分けて対応しました。診察室では、対応する職員は感染防御を徹底し、診断するための検査はアイソレーターを設置し、職員が被爆せずに検査をおこないました。当院では①PCR検査(外注)、②抗原定性検査(院内キット判定)、③抗原定量検査(2021年1月から院内検査導入)を実施しました。

新型コロナ感染を疑う症状の中で発熱は重要です。当院正面玄関では来院時に発熱の有無を判定しました。皆様のご協力、感謝いたします。発熱をみとめた患者さん、あるいは新型コロナ感染を疑い検査希望の患者さんは、発熱外来で診察しました。感染人数が増加した時期では、患者数が急激に増加し、安全に運用するために予約制を導入しました。

発熱外来受診者は2020年4月から2023年4月までに11,974名でした。新型コロナ感染陽性者は3,429名でした。発熱外来受診者が最も多かったのは2022年8月948名であり、感染陽性者は513名でした。2023年2月から4月までは1日の受診者数は平均8名であり、感染率は10%台でした。全期間の感染者数の推移を図に示します。

2023年5月に新型コロナ感染症は、感染症法上の分類が2類から5類に変更されました。社会活動を優先・復帰させるため、日常生活への規制が緩和されました。当院では、発熱外来の役割を終え、本外来を終了することにしました。皆様のご協力に感謝し報告させていただきます。新型コロナ感染症に対するワクチン接種は定着し、感染後は比較的軽症で経過・治癒する症例が増えて



いるようです。一方では、感染力の強いウイルス疾患であることは周知されています。個人の感染予防を含めた対策、感染が疑われる場合の早期診断は今まで同様重要です。当院は多くの患者さんが受診しています。感染が疑われるような症状、発熱がある場合などは、お申し出ください。お互いに「感染しない、感染させない！」を合い言葉に、皆様のご協力を何卒よろしくお願い致します。

在宅症例検討会 第10回 練馬在宅症例検討会を開催して

2023年5月16日(火)練馬総合病院にて『第10回 練馬在宅症例検討会』を開催しました。当院では在宅医療を支える多職種の方々と相互理解を深めるため、平成25年12月に練馬在宅症例検討会を開始しています。新型コロナウイルス感染症の広がりに伴い、昨年と一昨年はWEB方式としましたが、今年は会場とWEBを併用したハイブリッド方式で、誤嚥性肺炎をテーマに、講演、症例検討、総合討論、また、在宅医療推進のために意見交換を行いました。基調講演として当院副院長栗原より誤嚥性肺炎の基礎知識を説明し、田中デンタルクリニックの歯科医師 田中賦彦先生から誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアについてご講演いただきました。

症例①では在宅で家族がケアをしていた患者が誤嚥性肺炎で入院した症例です。病院で嚥下評価の方法、回復までの経過、日常的な口腔ケアの内容について、担当した医師、言語聴覚士、看護師から説明しました。

症例②は誤嚥性肺炎で入退院を繰り返していた在宅療養患者の症例です。病院と在宅における予防ケアや医療連携について発表しました。患者さん本人の希望、ご家族の希望、在宅療養のための準備、在宅療養移行への問題点などと、入院経過中の医療、看護、ケアについて担当した医師、看護師から説明しました。退院後の在宅療養におけるケアについて、LE在宅・施設訪問看護リハビリステーション武蔵関支店 永野礼子様にご発表いただきました。

総合討論の中では、病院から在宅へ情報を引き継ぐ際の内容やDX化などについてご意見をいただきました。更に、診療、看護、ケアマネージャーそれぞれの立場から在宅療養における様々な意見交換を行いました。一部をご紹介します。

- ・本人が病院に行きたくない場合もあり、在宅からの搬送のタイミングが難しい。アドバンス・ケア・プランニング(以下、ACP)を取得しているか否かで対応は変わってくる。(訪問診療医)
- ・ACPの確認は担当者会議が良い機会だと思う。また状態悪化時に在宅医からの依頼で意思確認もできるのでぜひ検討して欲しい。(ケアマネージャー)
- ・在宅での口腔ケアや誤嚥性肺炎予防の導入については、これまでの家族のやり方を急に変えるのではなく、本人の残存能力を見極めながら抵抗感なく始めてもらえるように医療職が関わっていくことが大切である。(訪問看護師)

総合討論の最後には、練馬区地域医療担当部地域医療担当係長 板垣様より練馬区における在宅療養等への取り組みについてコメントをいただきました。

今回は、会場75名、WEB79アカウントの参加がありました。業務後の時間帯にも関わらず多くの方々に参加いただいたことに感謝申し上げます。院外からはクリニック、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、調剤薬局、区役所、消防署、地域包括支援センター等の参加がありました。院内からは医師、看護師、薬剤師、地域連携室・医療福祉相談室、事務部等から参加し、知識を深めました。在宅-病院間の連携、医療介護の連携強化は重要です。救急搬送時、退院時などの情報共有の在り方について意見交換をすることができ、大変参考になりました。今後も在宅療養を支える地域の方々との連携を強化し、地域に求められる病院となれるよう活動を継続します。



文責 地域連携室 嶋原、栗原

看護週間・記念講演

🌸 2020年からの新型コロナウイルス感染症パンデミックにより、全世界で多くのイベントや講演が中止、延期されていましたが本年度は無事に開催することができました。

🌸 フローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、国際看護師協会(本部:ジュネーブ)は、この日を「国際看護師の日」に定めています。日本では1990年に「看護の日」が制定され、毎年、5月12日を含む土曜日から日曜日までを看護週間としています。当院でもコロナ禍以来の記念講演を開催することが出来ました。

開催日:2023年5月9日(火曜日)公益財団法人東京都医療保健協会練馬総合病院 地下講堂

～記念講演の内容～



- 🌸内科医師 東宏一郎 「糖尿病予防の生活習慣について」
- 🌸管理栄養士 北島絵理佳 「地中海式健康和食について」
- 🌸看護師 坂井奈穂子 「歯の健康について」
- 🌸理学療法士 橋本健太郎 「続けよう！ストレッチと筋トレ」
- 🌸看護部長 佐藤松子 「看護週間について」

公益財団法人 東京都医療保健協会
練馬総合病院
看護週間 令和5年5月9日～5月12日
「記念講演会」のご案内

練馬総合病院では看護週間にちなみ、下記の講演会を開催いたします。
ぜひ、多くの方にご参加をいただきますようお願い申し上げます。

主催：公益財団法人東京都医療保健協会 練馬総合病院

日時：令和5年 5月 9日(火曜日) 14時00分～16時00分

会場：練馬総合病院 地下講堂
受付：13時30分 開始
参加費：無料

<挨拶>
14:00～14:10 練馬総合病院 理事長・院長 柳川 達生
<講演>
14:10～14:40
「糖尿病予防の生活習慣について」 内科 東 宏一 医師
14:40～15:00
「地中海式健康和食について」～食生活を整え、自分と向き合いましょう～
栄養士 北島 絵理佳

15:00～15:20
「歯の健康について」 看護師 坂井 奈穂子
15:20～15:40
「続けよう！ストレッチと筋トレ」 理学療法士 橋本 健太郎
15:40～15:50 質疑応答
15:50～16:00
「看護週間について」 看護部長 佐藤 松子

※プログラムの内容は都合により変更になる場合がありますので、ご了承ください
当日は、感染対策として、マスクの着用をお願いします。地下講堂のご飲食はご遠慮ください。
参加のお申し込みは、5月1日(月)までに、外幸1階受付 総合案内
または、お電話 (03-5988-2200) F.A.X(03-5988-2250)にてご連絡ください
申し込み用紙は、総合案内用紙に入りますので必ずお持ちください
なお、当日参加も可能ですが、定員を超えた場合、参加できない場合がありますので
要予約とし、ご尽力をお願いします。

お名前(ふりがな)	年齢	お名前(ふりがな)	年齢



🌸 新型コロナウイルスが感染症分類の5類に変更することに伴い、当院の講堂で3年振りに地域の方々をお迎えしての開催となりました。感染対策として、予約制で人数の制限をさせていただき、講堂入り口への手指消毒液の設置と、間隔をあけての座席配置としました。

受診されている方以外にも入院されている患者さんの参加もあり、多くの質問を頂き会場は盛況でした。東医師による糖尿病予防の生活習慣では、運動が大きな役割を果たすこと、運動の量と質でも違いが出てくることを分かりやすく説明していました。また、当院の特徴でもある「地中海式健康和食」に関してもご質問も多くあり、「塩」ひとつとっても、精製塩、岩塩、粗塩の種類があり使い分けることはもちろん、取りすぎないことや、含まれているミネラル等のお話もありました。理学療法士の橋本先生の講演は、実際に身体を動かしながら楽しく聴講することができたと思います。

糖尿病指導療養士の資格を持ち、糖尿病教育入院で患者教育を担当している坂井看護師からは、食事を楽しくおい

しく食べることができ、いきいきとした生活が送れるよう日々のお口のケアについて分かりやすいイラスト付きの説明がありました。講演の最後に佐藤看護部長から、「看護週間」を再開できたこと、ナイチンゲールが160年も前に言っていた看護の基本となる換気や清潔、きれいな空気と水等、コロナ禍での感染対策の基本がまさに引き継がれ実践されていることをお伝えし、本年度の看護週間を無事に終了することが出来ました。



🌸 看護週間記念講演にご参加いただいた皆様には「わたしの思い手帳」ACP 普及小冊子を配布させていただきました。

ACPとは「Advance Care Planning/アドバンス・ケア・プランニング」これは将来、私たち自身や大切な人が病気になったり介護が必要になったりした時に備え、これまで大切にしてきたことや、これから誰とどのように過ごしたいか、希望する医療や介護のことについても、家族や大切な人、医療、介護関係者とともにあらかじめ考え、話し合い、共有する手段の一つです。

東京都福祉局のホームページにありダウンロードできるので是非、ご利用ください。

新任医師紹介

内科医師



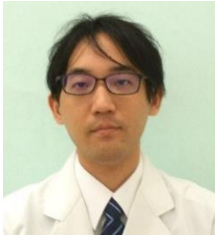
安田 伊久磨
(ヤスタ イクマ)

4月より内科で勤務させていただいております、安田伊久磨です。筑波大学を卒業後、同大学時代の先輩との繋がりから、大田病院、汐田総合病院という市中病院での一般内科の研修後、聖隷横浜病院にて消化器内科研修をさせていただき、消化器内視鏡専門医・消化器病専門医を取得しております。一般内科研修時代の指導医の影響から糖尿病と関わる事が多く、再度、糖尿病を勉強したく、上総記念病院にて糖尿病専門研修を開始させていただき、更なる研鑽をと当院への入職を希望させていただく事になりました。また、別系統の視点を持ちたいと、中医学(中国漢方医学)の専門学校で勉強しておりました。(まだまだ臨床でしっかりと活用するには、ほど遠いレベルですが...)そして消化器内視鏡検査も微力ながらお役に立てればと存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。



西澤 麻理子
(ニシザワ マリコ)

4月から内科に入職しました西澤麻理子といいます。2006年に大学を卒業し内科医としては2019年にスタートし、ようやく内科専門医を取得したところです。簡単に経歴をお話させていただきますと、2年間の初期研修修了後外科の後期研修に入り5年目の途中で第1子出産のため一旦離職しました。その後3人目を産出するまで在宅医療、一般内科、乳がん検診、一般健診、読影業務などに携わった後縁あって放射線科で3年間の研修を行いました。しかし直接患者さんを診察、治療したい気持ちを捨てられず、思い悩んだ結果内科医師として再スタートし現在に至ります。このような中途半端な経歴に対して、面接にて柳川院長先生をはじめとする先生方に肯定的なお言葉をいただいたことが大変ありがたく、この病院でさらなる研鑽を積みたい気持ちです。職員の皆様、患者様からもご指導いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願い致します。



石井 鈴人
(イシイ リント)

4月より内科に赴任させていただきました石井鈴人と申します。出身は岡山で岡山大学を卒業した後、東京通信病院(2年)→東芝病院(3年)→NTT 東日本関東病院(6年)を経て当院に赴任させていただきました。初期研修の頃より消化管内視鏡に興味を持ち、後期研修先の東芝病院から本格的に内視鏡の研修を初め、内視鏡界限でも最先端に行く NTT 東日本関東病院にて内視鏡漬けの日々を過ごしてまいりました。胃がんや大腸がんの内視鏡診断学に関しましては AI などかなり進歩してきているものの、まだ普及しておらず、実際は病変を見た目から治療適応を判断せざるを得ないことがほとんどですし、AI もまだまだ研究段階です。つまり医師によって治療方針(内視鏡治療か手術か)に非常にブレがある領域となります。数多くの診断・治療を経験したことを活かし練馬区の皆様に貢献できればと思っています、よろしくお願いいたします。



石本 飛鳥
(イシモト アスカ)

4月から内科で勤務しています石本飛鳥と申します。熊本大学を卒業し練馬総合病院で初期研修を行いました。その後、東京都医師アカデミーのプログラムに参加し都立豊島病院の内分泌代謝内科で内科後期研修を修了しました。豊島病院では糖尿病、甲状腺疾患を中心とした専門外来、糖尿病教育入院、COVID-19 を中心に内科診療を行っていました。まだ、医師としての経験が浅い部分はありますが、一人一人の患者さんやスタッフ、地域の方々に真摯に対応し、良い医療が提供出来たらと思います。何卒よろしくお願いいたします。



鈴木 美弥
(スズキ ミヤ)

はじめまして。国立病院機構埼玉病院の内科プログラム所属で、関連病院である練馬総合病院に研修させていただくこととなりました内科専攻医の鈴木と申します。趣味は、ピラティスと食べ歩きです。将来的には腎臓内科及び人工透析への専門研修を行う予定です。半年と短い研修期間ではありますが、何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

外科医師



吉川 祐輔
(ヨシカワ ユウスケ)

4月より外科医師として練馬総合病院に着任致しました吉川祐輔と申します。2009年に慶應義塾大学を卒業後、初期臨床研修を修了し、慶應義塾大学外科学教室(一般・消化器)に入局しました。外科後期研修を修了した後は、海外留学(A*STAR, Singapore)を経て、各地域の基幹病院で外科医師として修練を重ねて参りました。特に大腸・肛門疾患を専門としており、これまでに様々な疾患に対する診療経験を積んでおります。癌を中心とする大腸悪性疾患に対する集学的治療だけでなく、良性肛門疾患に対する薬剤・手術療法まで幅広く診療にあたらせていただきたいと思いますと考えております。地域の皆様の健康に対する不安に寄り添った医療を提供できるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



齋藤 隆
(サイトウ リュウ)

4月より練馬総合病院にて外科専修医として勤務いたします齋藤隆と申します。2021年に慶應義塾大学医学部を卒業後、三重県伊勢市にある伊勢赤十字病院にて初期臨床研修を修了し、今年度より慶應義塾大学外科学教室に入局、当院に赴任となりました。外科は消化管から肝胆膵、乳腺等様々な領域を扱う分野であり、必要な知識、技術は多岐に渡ります。外科医としてのみならず、医師としても未熟な私ではございますが、日々一生懸命研鑽に励むとともに患者様お一人お一人に真摯に向き合い、皆様に信頼していただける医師となれますよう精進いたします。何かと至らない点多々あるかと存じますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

整形外科医師



植木 博子
(ウエキ ヒロコ)

4月より整形外科医として勤務しております植木博子と申します。日本医科大学卒業後、みなと赤十字病院で初期研修し、東京医科歯科大学整形外科入局いたしました。関連病院で研修した後、大学院で研究を行い博士号取得、その後フランスとアメリカ留学し肩関節と膝関節を学びました。帰国後は川口工業総合病院で肩、膝、スポーツを中心に診療してきました。今年度からは練馬総合病院の一員として、患者さんが満足して良かったと思える医療を行っていきたく思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



岩淵 龍彦
(イワヅチ タツヒコ)

4月より整形外科医として着任致しました岩淵龍彦と申します。大分県出身で2018年に京都府立医科大学を卒業後、2020年に整形外科として東京医科歯科大学に入局致しました。入局後は日産玉川病院、東京医科歯科大学附属病院、川口工業総合病院、同愛記念病院と様々な病院で勤務をして参りました。外傷疾患を中心に脊椎脊髄疾患や膝関節領域など様々な分野での診療に携わっていきたくと考えております。地域の皆様により良い医療を提供できますように精一杯頑張ります。今後ともよろしくお願ひ致します。



高嶋 吉朗
(タカシマ ヨシアキ)

4月から整形外科に着任いたしました高嶋吉朗と申します。2020年に東京医科歯科大学を卒業後、東京共済病院、東京医科歯科大学病院で初期研修を行いました。東京医科歯科大学整形外科に入局し、東京医科歯科大学病院、九段坂病院で研修を行ってきました。今年度からは練馬総合病院の一員として、外傷疾患を中心に脊椎や膝関節など様々な分野での診療に携わっていきたくと考えております。名前のように朗らかな診療を心掛け、地域の皆様により良い医療を提供できるよう精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

泌尿器科医師



高松 公晴
(タカマツ キミハル)

4月より泌尿器科に着任いたしました高松公晴と申します。2010年に慶應義塾大学を卒業後、神奈川県横浜市立市民病院で初期臨床研修を終了し、慶應義塾大学医学部泌尿器科学教室に入局しました。入局後は様々な関連病院で研鑽を積み、臨床・研究両面で修練を重ねてまいりました。泌尿器科の一般疾患である尿路結石や前立腺肥大症、過活動膀胱では困っていらっしゃる方も多いと思います。また男性ホルモンが関連する男性不妊や男性更年期障害では症状や不安感はあるものの、どうしたらいいかわからず不安に思っている方も多いです。そのような患者さんが気軽に泌尿器科の門を叩いて頂けるような、開けた診療科を目指して参ります。また、これまでに培ってきた悪性疾患の手術、薬物療法など幅広い診療を行っていきたくと考えております。地域の皆様の健康的な生活に貢献できるよう、日々診療に当たらせていただこうと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

産婦人科医師



渡邊 沙耶
(ワタナベ サヤ)

4月より産婦人科に勤務しております、渡邊沙耶と申します。どうぞよろしくお願い致します。私は東邦大学を卒業後、独立行政法人国立病院機構東京医療センターにて初期研修を修了し、同病院の後期研修プログラムにて産婦人科専門医を取得致しました。後期研修中は、慶應義塾大学病院・栃木医療センター・東京歯科大学市川総合病院など多数の施設にて勤務をさせて頂きました。私は婦人科腹腔鏡手術に力を入れたいと思っており、当院での素晴らしい手術に魅了されてこちらでの勤務を希望致しました。また女性のヘルスケア分野に興味がありますので、様々なライフステージにある患者様の力になれるよう日々の診療を大切にしていきたいと思っております。自分の診療のモットーとしては、すべての女性の味方であること、与えられた仕事に感謝し前向きに取り組むことです。練馬総合病院の皆様、どうぞよろしくお願い致します。

小児科医師



佐々木 悟郎
(ササキ ゴロウ)

4月より小児科に勤務しております佐々木悟郎と申します。平成5年に慶應義塾大学を卒業し、同小児科学教室に入局後、慶應大学病院、東京電力病院などを経て、前職の東京歯科大学市川総合病院より入職しました。小児科領域では、内分泌代謝、糖尿病、臨床遺伝を専門にしております。小児科の外来診療は、従来は感染症など急性疾患への対応がメインでしたが、最近は成長発達障害、アレルギーなどに関する療育相談が増えており、それぞれに最新の知識と適切な検査や治療介入が求められます。小児科医としてちょうど三十年になりますが、自分の専門領域に偏らないよう、広く研鑽を積み直しております。練馬総合病院および地域医療のためにお役に立てるよう努力いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

麻酔科医師



仲田 麻衣
(ナカダ マイ)

本年4月より麻酔科で勤務させていただきます仲田麻衣と申します。平成21年に金沢医科大学を卒業後、獨協医科大学埼玉医療センターで初期研修を修了し、同病院麻酔科に入局して手術麻酔を中心に経験を積んで参りました。麻酔科医は他科の医師や看護師と協力し、手術が円滑かつ安全に行われ、痛みが少なくなるよう手を尽くし、チーム医療の一員としての役割を担っています。地域の皆様が安心して、安全な治療を、苦痛が少ない形で受けて頂けるよう、周術期の安全サポートに努めて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



石井 隆時
(イシイ タカキ)

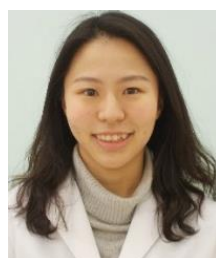
4月から麻酔科医師として勤務しております、石井隆時と申します。群馬大学を卒業後、群馬県太田市の太田記念病院にて初期臨床研修を修了し、同病院にて麻酔科専攻医として勤務しておりました。私は患者さんとのコミュニケーションを大切にし、常に丁寧な説明や配慮を心がけております。患者さんの立場に立った治療を心がけ、安心して治療を受けていただけるように努めてまいります。今後も新しい技術や知見を取り入れながら、患者さんの安全と快適な手術や治療をサポートしてまいります。よろしくお願いいたします。

2023年度 初期研修医



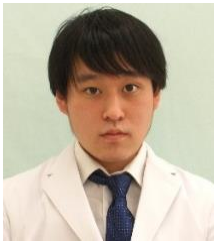
石橋 和馬
(イシハシ カズマ)

4月から初期研修医として勤務しております石橋和馬と申します。3月に群馬大学医学部を卒業し、現在医師1年目として練馬総合病院での診療にあたらせていただいております。出身は新潟県上越市で、とても雪が多い地域であったため、関東地方の冬の天気の良いさには感動いたしました。大学時代はバドミントン部に所属し、日々練習に励んでおりました。この春から医師として働くにあたり、学生時代と異なる大きな責任のある立場に身の引き締まる思いです。優秀なスタッフが揃い、地域を支える練馬総合病院で研修できることを嬉しく思います。ご指導くださる先生方、スタッフの方々にお力添えいただきながら、日々の診療に精一杯努めてまいります。至らない点もあるかと存じますが、皆様に信頼していただける医師になれるよう精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



柏原 朋佳
(カシワハラ トモカ)

4月から初期研修医として勤務しております、柏原朋佳と申します。3月に東京医科歯科大学を卒業し、医師一年目の初期研修医として診療に携っております。十歳時から東中野に在住しており、練馬区という馴染みのある地域の健康の一端を担うことができることを大変嬉しく思っております。大学時代は、幼少期からの趣味であったクラシックバレエに最も打ち込みました。怪我に遭遇する機会が多かったことをきっかけに、将来はスポーツ医療に関わりたいと考え、現在は整形外科を志望しております。勤務が始まり、右も左も分からない中で、病院のみなさまの温かさを実感するとともに、医師としての責任の重さに身の引き締まる思いです。患者さんの気持ちに寄り添えるよう、そしてチームの円滑な医療提供に貢献できるよう、医師としても人としても成長していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



蕨川 恭佑
(ワラビカワ キョウスケ)

4 月から初期研修医として当院で勤務しております、蕨川恭佑と申します。慶應義塾大学を2022 年度に卒業し、最初は外科や救急外来で勉強させていただいております。珍しい苗字と言われることが多いのですが、出身が香川県と遠方なのです。とはいえ、そこでも多い苗字かと言われるとそんなことはなく、日本で 100 人程度しかいないらしいです(うち 10 人程度は私の親戚です)大学時代は吹奏楽やオーケストラ活動に取り組んでいました。特に打楽器が好きで、音楽のかなめといえるリズムを刻む楽しさは今でも忘れられません。この原稿は勤務を始めて一週間ごろに書いているのですが、働き始めてからというもの、学生の時分よりずっと大きな責任や裁量がかかっていることに身が引き締まる思いです。まだまだ若輩者ではございますが、少しでも早く一人前になれるよう努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

よろしくお願ひします



コモンディーズシリーズ

『肩関節疾患』 整形外科 植木 博子

中高年になると肩が痛い、腕が挙がらないといった悩みを抱えている方も多いのではないのでしょうか？そこで肩の疾患について説明させていただきます。

■肩関節周囲炎とは

いわゆる四十肩・五十肩のことを言います。肩関節に炎症が生じる疾患の総称です。肩関節を包む袋である関節包が炎症をおこして硬くなり、肩が動かしくなくなった状態です。明らかな外傷やきっかけがなく徐々に疼痛、夜間痛が出現します。このような五十肩は、痛みの強い時期は注射療法を行い、痛みが和らいで肩関節の動きが制限されている時期になるとリハビリが奏功します。ただし、五十肩と同じような症状でも、外傷や骨折などに続発する外傷性肩関節拘縮や、糖尿病に合併する糖尿病性肩関節拘縮は、リハビリでは治らないことがあり手術をした方が良い場合があります。手術は関節鏡(内視鏡)で、5-10mm の傷2-3ヶ所で硬く厚くなった関節包を全周切離します。手術

時間は約 30 分程度です。

■腱板断裂とは

肩の中には腱板という肩甲骨と上腕骨を繋いでいる板状の腱が 4 つあります。転倒して肩をぶつけたり手や肘をついたり、重いものを持ち上げたなど、外傷を契機としてこの腱板が切れてしまう状態です(図1)。50 歳以降に好発

図1



します。ご高齢になると外傷がなくても自然に切れてしまうこともあります。80歳以上のご高齢者の約半数に腱板断裂を認め、そのうちの約2/3は症状がなかったという報告もあります。

腱板断裂の症状は、夜間痛、動作時痛、引っ掛かり感、肘を脇から離しての動作が辛いなどを認めます。治療は、腱板が切れていても経過とともに症状が軽快することがあり、注射やリハビリを行います。ただし、一旦切れた腱板は自然につながることはありません。保存治療を行っても痛みが残る場合や力が入りにくい場合、外傷により腱板断裂した場合は手術を行います。手術は関節鏡を使って5-10mmの傷5-6ヶ所で断裂した腱板を修復します。術後は3-4週間程度、外転枕という着脱可能な装具をつけます。術後2ヶ月で日常生活復帰、術後3ヶ月で軽作業、術後6ヶ月で重労働可能となります。

■石灰沈着性腱板炎とは

腱板の表層や腱板の上腕骨付着部に石灰が生じる病態を言います(図2)。40-50歳代の女性に好発します。症状は、突然誘因なく激痛が走り、肩を動かさなくなります。原因は不明です。レントゲンで石灰が確認でき診断できます。治療は、注射やリハビリを行います。保存治療に効果がなく痛みが取れない場合には、関節鏡で石灰を摘出する手術を行います。

図2 石灰沈着性腱板炎



■肩の人工関節置換術

膝や股関節のように肩関節にも人工関節置換術を行うことがあります。

肩の人工関節には、全人工肩関節置換術とリバース型人工肩関節があります(図3)。

変形性肩関節症によって肩関節が破壊され痛みを伴う場合には、人工肩関節に置き換える手術を行います。

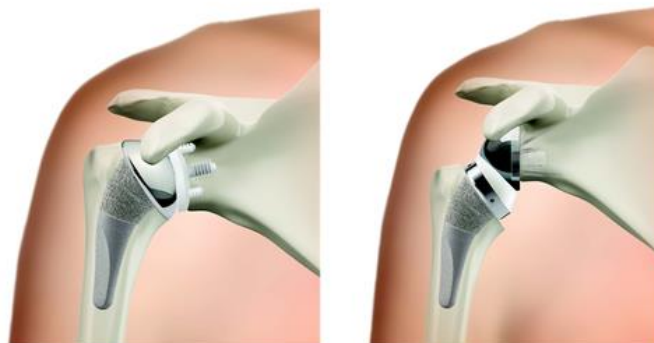
ただし、腱板が機能していることが適応です。

変形性肩関節症は、加齢とともに軟骨がすり減り関節が変形していく疾患です。原因は、関節リウマチ、原因不明、外傷性、上腕骨頭壊死(ステロイド性、アルコール性)

図3

全人工肩関節置換術

リバース型人工肩関節置換術



などが挙げられます。一方、腱板が広範囲に断裂している腱板断裂症性肩関節症に対してはリバース型人工肩関節置換術が適応となります。

肩の動きが悪くなっている、ゴロゴロ音がする、肩を動かすと強く痛む、横に肩が挙がらない、などといった症状がある場合には、この腱板断裂症性肩関節症という病気が考えられます(図4)。腱板が断裂していると、そのまま関節を置き換えても肩が挙がるようにはならないので、肩関節の骨が噛み合う面を逆さにすることで、三角筋のテンションが張るため三角筋の力を利用して肩を挙げられるようにするという仕組みのリバース型人工肩関節置換術を行います。

図4



骨頭と肩峰にすきまがない

粉砕の強い骨折にも適応となります。欧米では1980年代から行われていた手術ですが、日本では2014年によりやく厚労省により許可されました。最終兵器といえる手術です。現在、原則65歳以上の患者さんに適応となっています。

以上、中高年に多い肩関節疾患についてご説明いたしました。肩の痛みや不調でお悩みがある方は、どうぞ当院整形外科へお気軽にご相談にいらして下さい。

ナースの話

外来化学療法室

私は、主に外来化学療法室で勤務しており、がんの患者さんと接する機会が多くあります。化学療法室では安全に抗がん剤の投与をすることを目標にしています。さらに、患者さんとの信頼関係が重要と考えています。抗がん剤のスケジュールは、月に1回から4回の通院スケジュールが多く、定期的に患者さんと関わることが多くなります。健康な暮らしをしていた方が、健診で異常があり「がん」と診断されたり、「いつもと体調が違う」と受診し、検査の結果「がん」と診断を受けることは人生の中でも大きな出来事です。そのような大変な状況にいる患者さんと、どのように接するのがいいのか日々考えています。「がんになったことがないから(気持ちは)わからないでしょ」と言われたこともあります。患者さんと同じ体験をすることは難しいですが、専門的知識を持って患者さんの不安な気持ちに寄り添えるように、困っていることが何か、それを解決するためにはどうすればいいかを一緒に考えていきたいと思っています。

また日々患者さんから教わることも多いです。副作用などを教科書で勉強し、実際に患者さんに何うと同じような症状が出ていることがわかります。症状に対する緩和方法なども、「私はこうしたらよくなったよ」と教えていただいて、それを患者さんに提案したりということもあります。味覚障害の副作用で、食べられるものが減ってしまったと話をしていた患者さんに、以前他の患者さんから聞いた「トマト味」のものは食べやすいみたいですと話をしたこともありました。

「病院にきて先生や、看護師さんに話をきいてもらったら、何か(症状が)よくなった気がする。不安がなくなった」という言葉をもらいとてもうれしかったです。いてくれてよかったと思ってもらえるような、相談してみようと思ってもらえるような看護師でありたいと思いながら働いています。

自分らしい人生の選択

昨年からは本院のプロジェクトとして、「アドバンス・ケア・プランニング」に取り組んでいます。「人生会議」や「終活」といった言葉を聞いたことがあると思います。「アドバンス・ケア・プランニング」とは、病気(がんや慢性疾患)になった

ときに、どのような医療を望むか、どのような医療はしてほしいか、どこで療養したいか、何を大切にしたいかなど、前もって自分の意思を周りの人に伝えましょう、そして望み通りに療養できるように支援していきましょうという取り組みです。広い意味では、健康な時から考えましょうというものもあります。(ハローホスピタル 125号にアドバンス・ケア・プランニングについて掲載があります)

がんになったことで、生きがいである仕事を辞めたり、楽しみにしている旅行を諦めたり、自分のしたいことを諦めたりしてほしくないと考えています。治療を最優先して病気を治したいという患者さんの気持ちも十分理解しながら、体調が許す限りその患者さんがやりたいことができるようにお手伝いしています。病院や地域にはさまざまな専門職の方がいます。医師や薬剤師はもちろん、訪問看護師、ケアマネージャー、リハビリの理学療法士などです。看護師は患者さんの情報や希望を把握し、専門職とのつなぎ役になり、その患者さんの困りごとが解決できるように支援しています。日常生活が少しでも不安なく生活できるように、お手伝いしますのでどんなことでもお声かけください。

外来化学療法室看護師 蔵野弘美



くすりの話

副作用について

～医薬品副作用被害救済制度～

●はじめに

皆さんは、毎日使っている薬はありますか？薬を使っている、体調が悪くなったことはありませんか？もしかしたらそれは、薬の副作用かもしれません。

●副作用とは

病気を治療する目的で薬を使います。この目的とする作用を主作用と言います。例えば高血圧に対して使用する場合、血圧を下げることを主作用と言います。副作用とは、この主作用以外の作用をすべて副作用と言います。

●今飲んでいる薬は？

自分が今使っている薬が、何のために処方されているか把握できていますか？「処方されたから」、「飲むように言われたから」ではなく、どのような薬なのか把握しておくことや、どのような副作用があるか、知っておくことはとても大切なことです。



●副作用かなと思ったら

薬は医師の指示のもと決められた用法で、継続して使うことが大切です。他人が処方された薬をもらったり、医師の指示以外で自己調節したり、過去に処方してもらった薬を後から使ったりすることは適切な使用方法ではありません。また、正しく薬を使っても副作用が現れることはあります。医薬品を使って、副作用かもしれないと不安になったら、自分の判断で内服をやめたりせず、処方してもらった医療機関や薬をもらった薬局へ受診や相談をしてください。

また、厚生労働省が公開している「重篤副作用疾患別マニュアル」も参考にしてみてください。これ

は患者さんやそのご家族に知っておいてほしい重篤な副作用やその対応等がわかりやすくまとめられており、誰でもインターネットで見ることができます。



薬を正しく使っていて副作用が現れたときには、その程度によって「医薬品副作用被害救済制度」が適応される場合があります。薬を適切に使用しないと、何か問題が起きた時にこの「医薬品副作用被害救済制度」が適応されません。



●医薬品副作用被害救済制度とは

薬を決められた使い方と医師の指示のもと使用していて、入院が必要なほどの健康被害や、日常生活が送れなかったり、著しい制限を受けたりする健康被害が起きると、「医薬品副作用被害救済制度」が適応される場合があります。制度が適応されると、医療費や年金などの公費の給付を受けることができます。

●医薬品副作用救済制度申請の流れ

基本的には、副作用によって被害を受けた本人が直接、医薬品医療機器総合機構(以下PMDA[®])へ医療費や医療手当の請求書と薬と副作用の関連を示す書類を提出することで申請できます。詳しくはおかかりの医療機関やPMDA[®]の「救済制度相談窓口」へご相談ください。

●最後に

薬を使っている不安なこと、気になることがありましたら医師・薬剤師へご相談ください。



参照:

PMDA[®]ホームページ、厚生労働ホームページ

患者さんの声にお答えします

患者満足向上委員会

■「患者さんの声」に寄せられた、ご意見から抜粋して掲載させていただきます。

意見. 待合室のイスが空いているにもかかわらず、食事が出来る場所で本や新聞を読んでいる方、順番を待っている方がいつも座っております。食事を抜いて来院し、検査が終わって軽い手作りの物を食べたい時にその方達が立つのを待つのが辛いし、腑に落ちません。『ここは食事をする場所です』等の貼り紙やご注意を、よろしくお願い致します。

回答. 感染対策のため、院内での飲食を制限しております。ご不便をおかけして誠に申し訳ございません。

机の上に飲食スペースである旨を掲示致しました。会計等でお待ちの方は、飲食スペース以外の席にお座りいただけますよう、お願い致します。

■患者さんから寄せられた感謝の言葉も掲載します。

○ 先日胃カメラを受けた際、とても丁寧に対応して下さい感謝しています。カメラ前からの声かけと、カメラ中もそばで寄りそっていただき、安心して受けることが出来ました。コロナ禍で距離を置かれることが多い中、このようなケアを受けて本当にありがたかったです。(内視鏡センター看護師へのコメント)

○ 16:00 ごろ点滴のボトルを外しに来た時、気分が悪くなってイスに座りこんだ時、とんできて自分の面倒をみてくれました。患者が1人もいないのに最後まで見てくれました。人に寄りそう看護も大切だけど、心にしみる看護も大切。病院の方針がすみずみまで行き渡っている最高の病院。(外来看護師へのコメント)

今後もより良い対応が出来るよう、職員一同取り組んで参ります。

<次号> 第129号 2023年10月1日 発行

患者満足向上委員会・広報委員会では当院に対する
皆様からのご意見・ご質問などを“ご意見箱”や“E-mail”などでお待ちしております

ご意見箱設置場所

各階談話室、玄関入口総合案内

連絡先

Tel : 03-5988-2200 (代表)

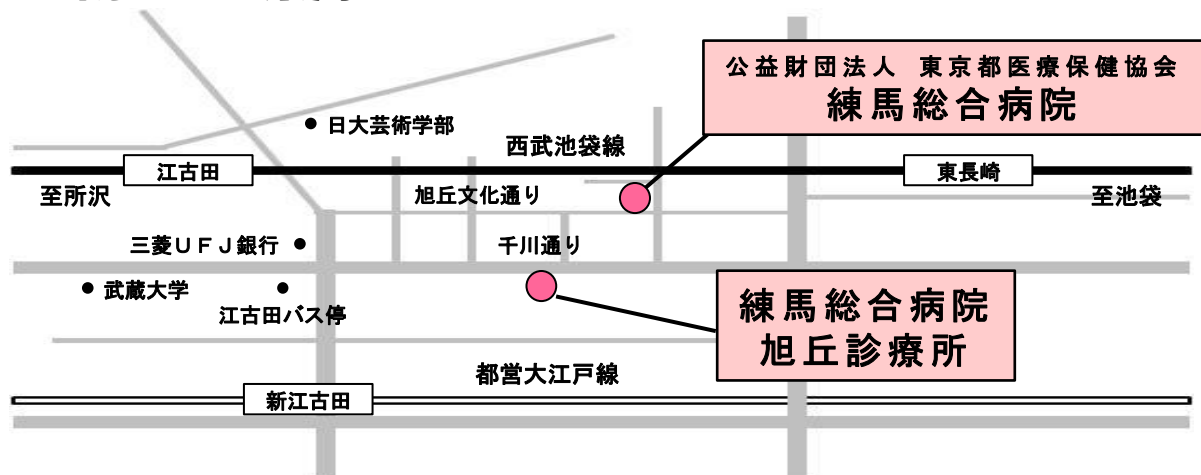
Fax : 03-5988-2250

E-mail : info@nerima-hosp.or.jp

<https://www.nerima-hosp.or.jp>



当院へのご案内



●練馬総合病院

●練馬総合病院旭丘診療所

〒176-8530 東京都練馬区旭丘1-24-1

〒176-0005 東京都練馬区旭丘1-32-9

第2MEマンション1階

・診療 問い合わせ 03-5988-2290
 ・各種ドック、健診 03-5988-2246
 ・その他問い合わせ 03-5988-2200 (代表)
 FAX 03-5988-2250

TEL 03-5982-8022
 FAX 03-5982-8045

交通：電車 ■西武池袋線 江古田駅南口 徒歩7分
 東長崎駅南口 徒歩10分
 ■地下鉄有楽町線 小竹向原駅④出口 徒歩15分
 ■都営大江戸線 新江古田駅 徒歩10分

【診療科目】

●練馬総合病院

内科／外科／循環器内科／整形外科／皮膚科／泌尿器科／産婦人科
 眼科／脳外科／リハビリテーション科
 健康医学センター(各種ドック・健診)
 糖尿病センター／内視鏡センター／漢方医学センター／結石センター

●旭丘診療所

小児科／漢方内科

【受付時間】

練馬総合病院 8:00~11:00 12:00~16:00
 旭丘診療所 8:30~11:30 13:00~16:00
 (第2・第4土曜日のみ 9:30~11:30)

【休診日】

土曜日／日曜日／祝日／年末年始

【救急受付】

24時間・当直医常時3名体制 (内科／外科系／産婦人科)

【面会時間】

平日、土・日・祝日 15:00~18:00 (6/15現在 事前予約制)
 個室を利用しての面会を実施しております。
 ※詳しくは、ホームページをご覧ください。